

## ■教育行政のポイント

### 中教審特別部会「答申案」と工程表

小川 正人

中教審“質の高い教師の確保”特別部会は、先に公表していた「審議のまとめ」(2024年5月13日)のパブリックコメント等をふまえ、方策の工程表(イメージ)案を添付した「答申案」を14回会議(7月26日)に提出した。答申案は8月開催予定の中教審総会で承認される見通しである。

#### 「答申案」で加筆修正された主な項目

上記パブリックコメントには1万8千件を超える多様な意見が寄せられたとされるが、答申案への加筆修正は軽微なものに留まっている。以下に主なものを挙げる。

①答申のタイトルに、「**全ての子どもたちへのよりよい教育の実現を目指した、学校における『働きやすさ』と『働きがい』の両立に向けて**」とするサブタイトルを加筆

②第3章「2. 学校・教師が担う業務の適正化の一層の推進」で、学校プールの管理業務の項目が追加され、教師等の負担を軽減する取組として指定管理者制度を活用したり、民間業者へ委託したりする等で負担軽減することが考えられること等を加筆

③上記第3章2節では、さらに年間の授業時数と教育課程編成の見直し事例として、「年間を通じた業務の平準化のため、夏季休業期間の短縮等により授業日数を増加させることで、一年を通じて週当たりの単位時間数を減少させることにより、児童生徒及び教師双方の負担の軽減を図っている教育委員会もある」と加筆

④第3章「3. 学校における働き方改革の実効性の向上等」では、**校長等の管理職によるマネジメント**について「時間外在校等時間が特に長時間となっている教師に対しては、現状を丁寧に確認した上で、目に見える形で働き方を改善していくための具体的な手立てを最優先で講じることが必要である」と、

服務監督教育委員会においては「時間外在校等時間が特に長時間となっている教師が在籍する特定の学校へのヒアリングの実施等の個別のアプローチを図っていくこと等を通じて、校長等の管理職による上記の取組の着実な実施につなげていくことも重要である」と加筆

#### 総合的な方策の工程表(イメージ)案

答申案に添付された「工程表(イメージ)案」には、2024～26年度以降までの具体的な取組等の予定が記載されている。主な方策について見てみると下記のように説明されている。

①2024年度中に、労働安全衛生体制の充実に向けた取組の検討、**勤務間インターバル**の事例等の整備を整理し、2025年度半ば頃までに留意事項等の通知を発出し、その後、自治体での条例等改正や学校への周知等を図り、勤務間インターバルや柔軟な働き方を推進

②2024年度中に**中堅層教師の「新たな職」**の検討を行い、2025年度中に自治体での条例等改正等を経て、2026年度からの任用・配置を想定

③2024年度に、**教員業務支援員を全小中学校へ配置、副校長・教頭マネジメント支援員**を創設。2025年から26年度にかけて、それらの充実や配置拡充を図る

④2025年度から**小学校中学年への教科担任制**の拡充、**若手教師への支援**のための定数改善、**生徒指導担当教師の全中学校配置**等を実施

⑤教師の処遇改善について、2024年度中に**給特法改正案**の検討、2025年通常国会への法案提出と改正、学級担任への手当加算の検討等を経て、2025年度から自治体での条例等改正で実施

(おがわ・まさひと＝東京大学名誉教授)

●答申・通知のポイントが3分でわかる！●

**マップ&シートで速攻理解！**

**最新の教育改革 2024-2025**

金子一彦【編】 B5判/定価 2,530円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

